福井県労働者共済生活協同組合

「第68回通常総代会」および「第9回組合員代表者会議」開催報告

7月30日(木)、福井県国際交流会館において、「第68回　福井県労働者共済生活協同組合通常総代会」「こくみん共済coop中部統括本部福井推進本部　第9回組合員代表者会議」が開催され、すべての議案が承認されました。承認された主な議題は以下のとおりです。



【第68回　福井県労働者共済生活協同組合通常総代会】

2025年度 事業概況

総合(慶弔)共済事業　加入および給付の状況

①**加入**　36,540件　286,389口　②**給付**　1,124件　13,886,500円

【こくみん共済 coop 中部統括本部福井推進本部　第９回組合員代表者会議】

Ⅰ.2025年度 事業報告

①全体状況

全共済合計では207,728件・25,581,792口となり、期首から件数は1,550件増加、口数は161,198口の減少となりました。

	期首実績（2025年5月末）	純増減目標	期末実績（2026年5月末）	純増減累計	対期首増加率	目標達成率
件数	206,178件	-4,449件	207,728件	1,550件	0.75%	102.97%
口数	25,742,990口	-704,462口	25,581,792口	-161,198口	-0.63%	102.17%

②主要共済状況

「火災共済」は2025年度の目標からは契約の減少を一定抑止できましたが、職域、居住域合計で382件、38,477口の減少となりました。

「自然災害共済」は183件・64,180口の増加となり、ベーシックの加入の増加傾向が継続しています。近年の全国的な自然災害の頻発により、十分な自然災害保障を備えられる加入者が増加しています。

「こくみん共済」は件数で1,211件、口数では239,792口の大幅な減少となりました。全国的に年齢満了や解約・失効による契約減少が続いている状況となっています。

「マイカー共済」は、団体割引制度を訴求した職域団体での掛金見積もり活動により多くの新規加入を獲得できたことから、250件・79,310口の増加となりました。

「自賠責共済」は、自動車分解整備事業者共済代理店および職域において目標を上回る実績獲得となったこともあり、48件・15,454口の増加となりました。

Ⅱ.2025年度 給付状況報告

①全体状況

全共済合計では、14,912件・2,370,272,294円のお支払いとなり、対前年度比で460,231,007円の増加となりました。

	2025年度累計	前年度累計	対前年度比
件数	14,912件	13,938件	974件
金額	2,370,272,294円	1,910,041,287円	460,231,007円

②特徴的な状況

2025年度においては、2026年1月に発生した「2026年冬期災害」の県内における契約者の方へのお支払いなどにより、対前年度比で「火災共済」が176,762,201円、「自然災害共済」で195,247,975円共済金が増加しました。

「個人長期共済」は満期共済金などの支払いが減少し、対前年度比で37,032,999円の減少となりました。

「終身共済」は、死亡共済金が減少したことなどにより、前年度比では11,818,793円の減少となりました。

「マイカー共済」は、近年高まっているインフレの影響もあり、対人賠償および対物賠償の合計が対前年度比で1億円を超える増加となったことなどにより、総額では206,509,617円の増加となりました。

Ⅲ.2026年度 福井推進本部 推進活動計画について

人を大切に、未来へつなぐ ～魅力あふれる「Team Chubu」へ～　推進活動計画の実践にむけた基本的な方向性

1新たな保障設計運動※の実践

※事前・事後の備え、「ムリ・ムダ・ムラ」のない最適な保障や資産形成により自身や世帯の生活設計を行うことで、「豊かで安心できるくらし」を実現

2. CX・EXの創造・実践
3. デジタルをベースに推進拠点と組合員サポート拠点が一体となった推進
4. 社会課題の解決にむけた取り組みと連動した推進
5. 保険業法改正をふまえた共創パートナー団体との新たな推進構築(共創事業)

福井県生活協同組合連合会機関誌

ふくいの生協

福井県生活協同組合連合会
〒910-0842 福井市開発5丁目1603番地(県民生協本部センター内)
TEL0776-52-8815 FAX0776-52-2050　Eメールアドレス kenren@fukuicoop.or.jp

2026年11月6日　No.153

http://www.fukui.coop/kenren/　福井県生協連合会　検索

第29回 Let's clean the beach! 海岸クリーンアップを実施しました

福井県生協連合会では、毎年9月にボランティアを募集して海岸の清掃活動を行っています。1997年のナホトカ号重油流出事故をきっかけに開始したこの取り組みは今年で29回目となりますが、鷹巣海水浴場と三国サンセットビーチに加えて、初めて水晶浜海水浴場での清掃を募集しました。

9月12日(土)は三国サンセットビーチの清掃を行いました。

秋晴れの中、小中高校生や大学生、会員生協の役職員・組合員、県内企業や団体、サマーボランティアの募集や当連合会のホームページを見て申し込まれた方、また地元のみなさん、約140名がご参加くださいました。豪雨の影響で流れ着いた草や木の枝などのごみを、協力し合って回収・清掃いただきました。





水晶浜での活動日の9月26日(土)は、あいにくの雨天となりましたが、約40名がご参加者くださいました。一見しただけでは認識しにくい小さなプラスチックごみが多数散乱しており、生態系への影響が危惧されている「マイクロプラスチック問題」の深刻さを実感しました。海中にはさらに膨大な量のプラスチックごみが漂流していると想像され、私たちの日常生活のあり方や環境問題について、改めて見つめ直すきっかけとなりました。



今年度も多くの方にご協力いただき、無事海岸クリーンアップの活動を終えることができました。

豊かな自然と郷土への愛着を次の世代へ繋ぎ、ボランティア活動の輪を広げることで、より良い社会と地域の未来に貢献したいと願っています。

9月5日（土）に予定していた鷹巣海水浴場での活動は、悪天候の予想のため残念ながら事前に中止を決定しました。

ご参加の皆様、ありがとうございました。

「生協ボランティア月間」が始まります。

2026年11月15日から2027年2月15日

福井県内生協ボランティア活動の一環として今年も「生協ボランティア月間」に取り組みます。古切手、書き損じ葉書、外国コイン、ベルマークを集めますので、ご協力ください。集まった収集物は、収集ボランティア団体からコレクターなどに売られて換金され、売上金が福祉活動に活用されます。

お問い合わせは、福井県生協連合会　事務局まで。



収集物寄贈の様子

福井県協同組合連絡会

水産業の未来

福井中央魚市株式会社
福井ならではの価値をつくりだす

福井県協同組合連絡会（JA中央会・経済連、漁連、森連、ワーカーズコープ事業団、生協連）では、毎年各協同組合の施設を視察しながら交流を図っています。今年度は、福井県漁業協同組合の運営で、福井市の中央卸売市場において県内唯一の水産大卸（荷受会社）を担う、福井中央魚市株式会社を視察しました。

同社は年商約200億円、従業員約80名を擁し、消費地市場としての機能に加え、福井の海の特性を活かした産地市場としての役割も果たしています。全国に先駆けて開始した「近海朝どれ市」では、早朝に定置網で獲れた魚を同日午前7時40分から競りにかけ、抜群の鮮度で県内流通に乗せる画期的な仕組みを構築しています。







同社の取り組みで最も注目すべきは、2014年から取り組む「ふくいサーモン」の養殖事業です。県内の漁獲量がピーク時の半分以下に落ち込む中、水産物を安定供給し続けるという強い使命感から、水産卸として業界初となる一次産業（養殖業）への参入を決断しました。

本事業の最大の強みは、孵化、稚魚の育成、種苗の育成、陸上養殖場（大野市）と海面養殖場（おおい町）での成魚育成、そして販売に至るまで全てを自社で手掛けていることで、これにより、品質の安定と改善サイクルを飛躍的に早めることに成功しました。また、冷水魚であるサーモンを、水温が安定する山間部と海面の両方で育てることで、日本でも類を見ない「通年での鮮魚（生）出荷」を実現しています。さらに2024年には、養殖生産現場として日本初となる厳しい国際基準「ASC認証」を取得し、環境や安全に配慮した持続可能な水産業を体現しています。

直近では、市場内に新たな孵化施設を建設し、作業の効率化を図るとともに、「市場（福井市）で孵化し、大野や大飯へ旅立ち、成長して市場へ帰ってくる」という独自のストーリー性も生み出しています。（孵化施設は現在建設中です）

孵化施設は11月に完成予定で、
外観にはイラストが描かれる予定です▶



海外貿易拠点の展開も含め、既存の慣例にとらわれず、常に新たな領域へ挑戦し続ける同社の姿勢は、「地域未来牽引企業」の名にふさわしく、福井の水産業の未来を明るく照らしています。

会員生協の活動報告

福井県民生協

令和8年熊本地震緊急支援募金と能登半島支援の取り組みおよび8月豪雨・大雨災害に対する支援取り組み報告

●令和8年熊本地震緊急支援募金取り組み報告

2026年7月28日に発生した「令和8年熊本地震」に対して、7月29日より店舗ハーツで募金を開始し9月30日まで受け付けしました。コープの宅配では9月1回～4回企画にて緊急支援募金に取り組みました。9月末で935万円を超える募金が組合員・地域の皆様、役職員より集まり、日赤福井県支部と福井県共同募金会に義援金として贈呈させていただきました。残りは日本生協連・熊本の生協を通じて、被災地支援の取り組みに活用させていただきます。

贈呈先 日本赤十字社福井県支部 300万円



（写真：9月17日　右から戸田事務局長、檜原理事長、内田理事、森下理事）

受取者 日赤福井県支部 戸田事務局長
贈呈者 檜原理事長、森下理事、内田理事

贈呈先 福井県共同募金会 300万円



（写真：9月30日　右から清川会長、檜原理事長、前田理事、伊藤理事）

受取者 福井県共同募金会 清川会長
贈呈者 檜原理事長、伊藤理事、前田理事

●能登半島支援の取り組み報告

令和6年に発生した能登半島地震と能登半島豪雨で加賀エリアに広域避難をされている被災者の皆さんに対して、能登半島地震・豪雨で寄せられた募金を活用して「メッセージ付き日用品」300セットをプレゼントしました。9月14日台所用洗剤、スポンジ、ウェットティッシュ3品と応援メッセージを、檜原理事長より金沢市社会福祉協議会の高柳会長にお渡ししました。現在も1，000人近い方が広域避難をされています。引き続き能登半島被災者支援に取り組んでいきます。



●8月豪雨・大雨災害に対する支援取り組み報告

2026年8月13日に発生した千葉豪雨、および8月30日に福井県嶺北を中心に発生した大雨災害に対して、この間組合員の皆さんから寄付され備蓄していたタオルを緊急でお送りし、お見舞いとしてお届けしました。

千葉豪雨災害への支援



8月21日フェイスタオル1，000枚をコープみらい千葉県の配送センターにお送りしました。

福井県嶺北大雨災害への支援



被災された組合員の皆さんには宅配やハーツを通じてお見舞いのタオルをお届けしました。